

企業ニュース 小野薬品工業

(東証1部: 4528) <https://www.ono.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

「オブジーボ」が主力製品、がん領域に強みを持つ創業企業

1717年、伏見屋市兵衛商店として創業。1947年、小野薬品工業設立。医科向け専門の中堅創薬メーカーで、がん領域に強みを持つ。免疫チェックポイント阻害剤オブジーボ点滴静注（以下オブジーボ）が業績をけん引している。免疫チェックポイント阻害剤は、がん細胞が免疫細胞の活性化を抑制する作用を阻害する薬。オブジーボは2014年7月に悪性黒色腫の治療薬として承認以降、非小細胞肺癌、腎細胞がん、頭頸部がん、食道がん、胃がんなどへ適応が拡大している。さまざまながん種での薬効も期待されており、現在多くのがん種で併用療法なども含め臨床試験が行われている。昨年には、日本で比較的罹患者の多い（年間約11.5万人が新たに診断される）胃がんの一次治療薬として承認申請を行った。オブジーボはブリストル・マイヤーズスクイブ社に導出され、同特許に抵触する製品を販売する競合他社からも含めロイヤリティを受け取っている。

◇オブジーボの主な開発状況
(国内/一次治療)

がん種等	臨床状況等
非小細胞肺癌	承認取得済み
腎細胞がん	承認取得済み
胃がん	承認申請
食道がん	承認申請
大腸がん	第2/3相試験
肝細胞がん	第3相試験

(注) 22.3期2Q決算発表時

(出所) 小野薬品工業資料よりCAM作成

オブジーボの適応拡大で業績の拡大が続く

22.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は、売上収益が1,741億円、前年同期比16%増、営業利益が582億円、同11%増。主力製品のオブジーボの売上収益が561億円、同14%増と伸長、長期収載品の販売低迷を補った。ロイヤリティ収入も拡大した。オブジーボは競合他社製品との競争が激化しているが、非小細胞肺癌の一次治療や食道がん二次治療における使用が拡大した。その他の主要製品も伸長した。

22.3期連結業績の会社計画は、売上収益が3,450億円、前期比12%増、営業利益が1,030億円、同5%増。営業利益は通期計画に対する第2四半期時点の進捗率は56.5%。従来の業績予想は据え置かれた。オブジーボは8月に薬価再算定されたが、数量ベースでは順調に推移している模様。胃がん一次治療薬の承認の可能性なども勘案すれば、会社計画は上回ろう。免疫チェックポイント阻害剤の競争環境は厳しいが、パイプラインなどの進捗状況などからも、オブジーボの中期的な拡大は期待できよう。

[株価動向・投資判断]

オブジーボの適応拡大が業績をけん引する構図が継続しよう。胃がん一次治療薬での承認が次のカタリストとして注目したい。

<4528 小野薬 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	292,420 (1)	77,491 (25)	79,696 (22)	59,704 (16)	118.5	45.00
21.3	309,284 (6)	98,330 (27)	100,890 (27)	75,425 (26)	151.1	50.00
22.3 予	345,000 (12)	103,000 (5)	105,000 (4)	81,500 (8)	163.3	56.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/11/5)	2,498.5 円
年初来高値 (高値日)	3,275 円 (21/1/27)
同 安値 (安値日)	2,361.5 円 (21/10/29)
予想 P E R (22.3 予)	15.3 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,350.6 円
P B R	1.85 倍
予想配当利回り	2.24 %
(1株当たり配当金年56.00円)	
R O E (21.3)	12.6 %
発行済み株式数	52,834 万株